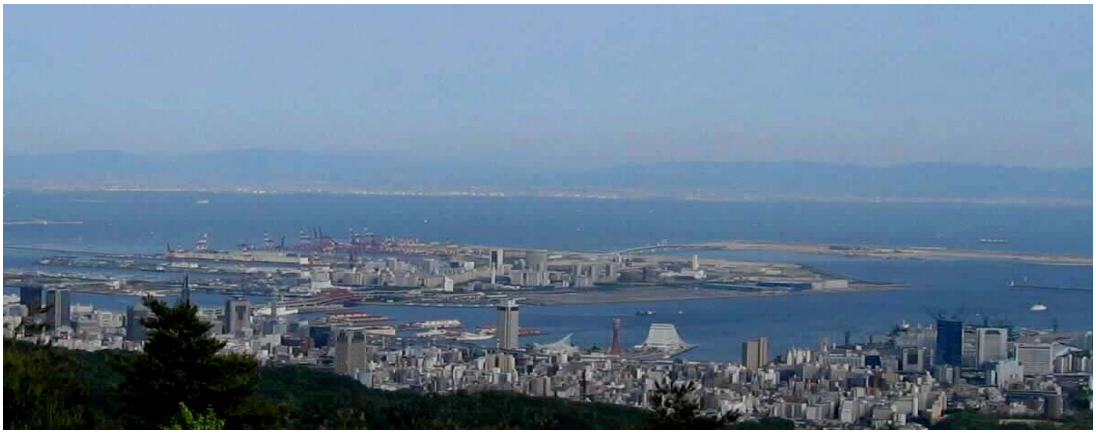
四季折々 MUtsu　思いつくまま 2006　from Kobe

1. 最近の発 面調査　速報　雑感　2006. 3.
2. 最近のTVから　異常気象　お花見 とグローバル　スタンダード　2006. 4.
3. 最近のTVから　「鉄腕　DASH村」で !!　精錬鍛冶を紹介　2006. 4.
　TV で紹介　「古鉄再生　「溶かし付け」の技術
4. アフリカ砂漠では　雪がそのまま水にならずに雲になる????　2006. 6.
5. ティーバッグ　タイ プ　の　コーヒ　2006. 6.
6. 生産が始まるまで 500 年を越えるたたら製鉄の謎　2006. 7.
　ここに日本の物づくりの原点を見る
7. 鉄道遺産　SL 山口号が京都梅小路で解体修理された　2006. 8.
8. 旅　論　2006. 11.
　－「『宗教・教派を超えた平和の祈り』の集い」「広島国際平和会議」に参加して－



四季折々 MUtsu　思いつくまま 2006　from Kobe

1.　最近の発掘調査　速報　雑感　　2006.3.1.

2 月と 3 月　例年　発掘調査速報が新聞紙上をにぎわすが　今年はさらに例年になくにぎやかである。
そんな中で気になった記事紹介

●　日本人の心のルーツ　平和な縄文の集落の形がそっくりそのまま出土
山梨県　北杜市　梅之木縄文遺跡

2006 年 2 月 28 日の朝日新聞で縄文の環状集落がそっくりそのまま初めて出土したとの記事が掲載された。
山梨県北杜市梅之木縄文遺跡　場所は南アルプスや八ケ岳そして富士山を遠望できる茅ケ岳の西麓の扇状地という。

縄文の「モデル村」全面保存できる？
山梨・梅之木遺跡
広場囲む集落 丸ごと出現
進む産廃処分場計画
2006年2月28日

「広場を中心に円形に住居が取り囲む」円形の集落どの遺跡でも同じとはいえないのでしょうが、この広場に先祖・死者が葬られれ、亡くなった人と共に同じ空間で生活するのが縄文。
「争いを知らない縄文」「日本人の心のルーツ」
この形がそれを具現するといわれれ、その形がそっくりそのまま出土したという。

ずつと　あこがれてきた　縄文集落の形
是非　壊さずに残してほしいものである。
雪が消えたら　すぐにでも　見学にでかけようと思っている。

●　加速器 C14 年代測定法の結果が弥生そして古墳時代の時代観を変える

例年のことであるが、2,3 月は発掘された日本列島の新発見速報で忙しくなる。
今年も次々と新発見考古速報が新聞紙上をにぎわしている。
国立歴史民俗博物館が数年前加速器 C14 年代測定法により「弥生時代の始まりは 500 年遡れる」と発表し、賛否両論　数々の検証がすすめられている。 そして、山内丸山縄文遺跡の発掘が縄文の歴史観を替えたように、弥生の始まりにととどまらず、今まで伝えられてきた日本列島稲作の伝播・日本列島の稲作の風景を変えようとしている。
DNA 分析もそうですが、解析技術・手法の発明・進歩が真実を解き明かし、時代を変えてゆく。
逆に考えると解析技術・手法の限界を見誤ると真実が捻じ曲げられる。
技術屋の心せねばならないところだろう。
世の中　偽者と本物益々巧妙となり、それを見分けることは益々難しく、人によって判断することが多い。
本当に信用できるのか・・・ いやな時代である
隣近所　暢気坊主でいければどんなにいいか・・・・
昭和 30 年代の下町を描いた映画「always 夕日町 3 丁目」がヒットしているのもそんなノスタルジックな世界に郷愁を覚えるためでしょうか・・・・。
でも現実は厳しい。どうすればいいのか　解はなし　自分の生き方で示さねばなるまいと思う。

2006.3.1.　Mutsu Nakanish

2.　最近の TV から　異常気象　お花見とグローバル　スタンダード　　2006.4.12.

300 万円で暮らす「下級社会」がひろがっていると TV や新聞がまるで他人事のようにその言葉を気安く口にする。
ほんとにそれでいいのだろうか・・・・
ある TV 番組での最近の討論の一部ですが、

家で一番大事な人は外には見えない「奥」様
海と陸をつなぐ場所は「浦」（裏）　御所の一番大事な場所は「内裏」
「オープンでない所に大事なものがあり、　表と裏　そして　その奥行きを見なければ

『何でもありの倫理観が底抜けた今の日本』で どうにもならない　」と。

一方　「表と裏の二者択一」奥行きのない西欧はどうかというと　「倫理観」が社会に生きている　」と。
外人は日本を不思議に思うと共にそれに心引かれ、日本は外国を手本にコピーを目指す
「どちらがいい　悪い」の問題でなく、両方の「いいとこどり」の口先に惑わされぬよう。
「マジョリテイー・勝ち馬に乗る」事だけを行動の規範では薄ら寒い時代である

また、西欧の街並みには雨宿りできる軒先がないが、日本にはそれがあるという。
日本の街並み風景には人や人の営みが不可欠なのに　西洋の　風景には人がいらない。
誰もがはいれる軒先　そして外と内をつなぐ奥行きの文化が日本にはある。
それが　伝統・伝承で　変わることのない規範であると。
奥を見ないと日本は判らない。でも、日本人はそれを忘れているのではないかと。

直ぐに「自分は何々派」があっという間に日本に広まり　口先だけのデイジタル・グローバル。
そして　その価値観が一日でひっくり返る。 これだけ価値観が一日で変わってしまう社会は決してよいとは思えない。

最近の景気回復は著しく労働事情は良くなったという。しかし、働く人の 1/3 が正社員でなく、不安定な派遣・パート等の非正社員という。本当にビツクリするような数字である。そして　非正社員も昔のような腰掛けやアルバイト的存在ではなく、家計を支える中心の人達である。
この 10 年の不景気が会社。社会を根底から変えている。これが日本では　企業収益・効率化・グローバルの中身
そして　学校の先生ですら正規が減少して、飯を食えない人が増加していると言う。
これほど　弱者が増えているとは・・・・・・・・。　本当にビツクリするような数字である。
もはや　団塊の世代の話ではない。
「どうにかなる」から　「どうにもならぬ」現実が直ぐ前に来ている。
底なし沼の階層社会にならぬよう　惑わされぬ知恵と感性を養わねば・・・・・

世はデフレが克服され、上昇気流という。
これはディジタル・グローバルスタンダードの名の下に底なし沼の競争を意味するのか・・・・
平成の大合併　それぞれでやっていけない町同士が合併して　どうして　大きくなれば　きめの細かいサービスが向上するのだろう　ひそかな疑問が今や　合併の町で　切捨ての現実が猛烈に進んでいる。
やつぱりなあ・・・・・で済めばよいのですが　　地方に行くとやたらにそれが目につく。
今年　春　TV は「東京は桜満開　お花見　お花見」と　それこそ　今行かなければ・・・・・の風。
でも　そのとき　関西はまだ　花のつぼみ硬し。
そんなまだ桜の咲かない大阪の公園に張り巡らされた青いグランドシート
あたかも東京の姿が、すべてのスタンダードとして伝え、それに乗り遅れまいとする姿

今　桜満開の関西　でも　TV は　もう　さくら花見のかげもなし・・・・・

TV に踊らされて　青いグランドシートを張った人の群れ　寒さに震えて　花のない花見をしたのだろうか・・・・
グローバルって　こんなものかも　知れないなあ・・・・と。
また、東京と大阪の差をこれほど毎日聞いたことなし。
内では東京がおかしいとおもいながらも、　ひょっとして関西が・・・・と。
やっぱり　異常気象　　景気が良くなった・・・・と勝手に思い込んでも　自分とこには　こないかも・・・・
今年はそんな春をいくつか　感じました。

さくら満開の須磨で　　2006.4.12.　Mutsu Nakanishi

3.　最近の TV から　TV で紹介　「古鉄再生　「沸かし付け」の技術」

「鉄腕　DASH 村」で !!　精錬鍛冶を紹介　2006.4.1.

最近　たたら製鉄など古来の和鉄製鉄や刀・釘などの鍛冶の技術を紹介する TV 番組や新聞報道を眼にすることが多い。
そんな中で、いつも言われるのが、

「たたら製鉄や古来の製造法で造られた和鉄は現在の方法では作れない。
また古来の和鉄でないと直ぐに錆びがでて　千年も持たない。
今も刀製作には和鉄の玉鋼が刀匠たちで分けられて使われ、
古寺の解体修理には和鉄で造った釘が使われる。
さもなくば　古刀や使用されていた昔の釘を再度再生して使う　」と。

確かに　そうだと理解しているのですが、一般の報道や TV では次の疑問には答えてくれない。
想像はするのですが、良くわからない。

「なぜ　現在の鋼は千のですが年もたず、さびるのか」
「古い釘や刀を再生するって　どうやって・・」

■　なぜ　現代の鋼は錆びて　和鉄は錆びずに千年持つのか・・・・

「和鉄は純度がいいからだ」と言われるが、清浄性だけを言うなら　現在の鋼の方がづっと清浄なのである。
ここでいう「純度」とは主に「金属成分」の混ざり物を言う。
現在の鋼には鋼を清浄にするため、非金属の不純物を除去するため、Si や Mn などの異種金属が必ずはいって鋼を高清浄にして、大量生産が可能となった。しかし、鉄の中に他の金属成分が入ると水と反応して表面が非常に錆びやすくなる。 特に Mn がいちじるしい錆び発生を助長する。

（学問的には　表面で局部酸素濃淡電池を作り、著しく水酸化鉄の赤錆を発生すると理解している。）

したがって、現在の高温溶融の製綱法では脱酸・脱硫の金属添加が必須であり、ステンレスなどの赤錆び防止できる合金成分を添加しないと錆びはとめられない。
　予談であるが、日本の刃物・刀は軟らかい地鉄と刃の部分を形成するかさね接合することで刃の切れ味と本身の靭性が両立されるが、 西欧では硬さと仁政の在るステンレスの合金鉄一枚で作られる。
どちらも錆びに強いことが　長く別々の発展を遂げた理由の一つではないかとも思っている。

■　では　古い釘や古刀をどうやって、再生するのだろうか・・・・・・

「沸かし付け」と呼ばれるまさに古代からの精錬鍛冶技術の延長上の技術で再生される。
この技術を　TV 番組「鉄腕　Dash 村」では「クワ・ナタを自前で製作する」として古鉄素材（古釘）の再生によ

る「地鉄」「鋼」作りを炉の作成から精錬・鍛冶まで　そして　その後のクワ・ナタ作りまで実に丹念に紹介してくれた。
再生とは「単に刀や釘など古鉄材を加熱鍛造して　素材を引っ付けて　再生するのだと思っていましたが、　まさに古来の「精錬鍛冶」の技術の詳細。びつくりして　かじりついてみました。
「沸かし付け」の言葉は聴いたことがありましたが、丁寧に１時間たっぷり実践が行われました。
精錬・脱炭・加炭を　鞴を使って　温度と炎の状態を調整して　素材を半溶融の塊状にして鍛造で一つの素材にする。
半溶融の沸かし付け　　やつぱり　種になる塊が奥に詰められ、これに半溶融の鉄がすいつけられる
実に丹念に温度・雰囲気コントロールの実践が描かれていました。

日テレ　DASH 村　　「鍛冶」　より

鍛冶技術をこんなに丁寧にリアルタイムの実践で解説つきで見たのは初めて。
古代　日本で鉄生産が始まる前　専用鍛冶工房として鉄器の大量生産を担った精錬鍛冶工房がどんな技術であったのか
その時　朝鮮半島から移入された素材は何か
これらに非常に興味をいだいていた時だったので　よけいに興味　　TV に１時間釘付けでした。

ちょつとみでは判らぬ実践技術　物まねでは出来ない技術
鉄が伝来して国内生産まで約 1000 年かかった技術の一つとつくづく思いました。

そんな技術　「DASH 村」のホームページ開けると　詳細に記録が掲載されていました。
残念ながら　今　掲載されているのは　抜粋になっていますが・・・・
ご興味のある人　ぜひ。
日テレ　DASH 村　　「鍛冶」　　3 月 19 日放送
http://www.ntv.co.jp/dash/village/
ものづくりの技術　伝承せねばならぬ質の技術とはなにか　　そんなことが垣間見られるページです。

4.　アフリカ砂漠では　雪がそのまま水にならずに雲になる????

梅雨時になると気になる湿度　　2006.5.19.

5 月連休の快晴続きの天候がうそのように ぐずついた天気が続いている。 いよいよ　梅雨の到来か・・・・・
それでいて、「風ひかる・・・」「風かおる」そのままに野山の緑は雨に輝いて　素晴らしい。
前にも書いたかもしれませんが、　毎年このぐずついた天候になると溶接屋の私には「溶接材料　欠陥出していないだろうか・・・」と湿気が気になる。
先日　TV を見ていたら、アフリカの砂漠では　降った雪が溶けて水にならず、そのまま蒸発して雲になるという。湿気が少ないためである。 雪を食べると言ったって限度があり、動植物の水分補給は難しく、時には年に 1 回の雨にかけて、1 年以上ももじっと動かず待つという。植物だけでなく　動物がそんな進化の機構を持っているという。信じられないことであるが、アフリカではそうだと言う。
　そういえば　昔　モスクワによく行っていた頃　－20℃以下になると雪は砂と一緒で、スリップなんてなし。ぼんぼん　車を飛ばして行く姿に「雪でなくて　砂だ」と。
冷凍庫の中は砂漠ではありませんが、フリーズドライも・・・・・
冷凍食品をラップで被っておかないとどんどん水分抜けて、干からびてしまう。

梅雨時「湿度　何%か」と溶接屋にはいつも気になる湿度。
いったい　どの程度から　水にならずに　そのまま大空に蒸発してしまうのだろうか・・・・
溶接棒の吸湿の経験からすると湿度 60%が一つのポイント。
湿度がこれ以下だと溶接棒の吸湿がほとんどないと思っている。
今　関西で話題の高松塚・キトラ古墳の壁画の汚染カビも湿度・温度と連動。
今回公開されたキトラ古墳「白虎」の図も「湿度 60%±2～3%温度 20－25℃」の範囲で厳しく管理して公開しているという。さもないと壁画の水気が抜けて壁画は崩壊するし、逆だとカビが壁画を汚染する。ぎりぎりのところでの公開だと新聞が伝えている。
いろんな活動がどうも　湿度 50～60%　　を境にして生じ、自然界も技術もこの克服に力を尽くしている。
こんなところにも技術がある。
日本にいると雪も霧も雨もみな水となって大地を潤すものと思っていましたが、地球にはすごい所がある。
ついつい　忘れがちであるが、「湿気」の有り難味と凄さ
でも　やっぱり　心配な溶接棒の湿気。今年も　問題なく　乗り切れることを願っている。

2006.5.19.　ぐづついた空　神戸で
Mutsu Nakanishi

5.　ティーバッグタイプのコーヒ　　2006.5,15

「田中講平さんの萩」のカップで　午後のコーヒータイム

家にいる機会が多くなって、一番困るのがコーヒー。コーピの味というより、プーンとただよう香りが好き。
勤めているときには 100 円硬貨さえあれば直ぐに香り漂うコーヒーが飲めたのですが、家ではそういうわけに行きません。
「コーヒー豆を挽いて　ドリップして・・・」というところまで行かなくても、ドリップパックに入れられたコーピをカップの上に広げ、上から数回に分けてお湯を注ぎながらコップが一杯になるのを待つ。

お茶代わりに何度も飲むとなると実にめんどうで、待ち遠しく、ドリップ　バックの置く所も用意しておかないとテーブルが汚くなる。紅茶やお茶のテーバックのようにお湯を注ぐだけで香り高いコーヒーが飲めないものか・・と。
数年前　東京虎ノ門のコクテル堂が唯一コーヒーバッグを売っていて、随分重宝しました。

神戸に帰って　百貨店の試飲コーナーやコーヒー専門店さがしたのですが、よう見つけなかった。
最近　家内が近所のスーパーで UCC「ディップ　イン」というコーヒーバッグを探してきてくれ、好きな時間に好きに珈琲が飲めるようになりました。
味もそこそこ　なんと言っても　好きな時に　自分でコーピの香りが手軽に味わえる。
庭の花を見ながら　好きなコーヒーカップで　好きな間に　午後のコーヒタイム
ずぼらなコーピー好きにはもつてこい。　お勧めです。

「田中講平さんの萩」のカップで　午後のコーヒータイム
　　庭の花をながめながら　コーヒーを飲んでいて
　　2006.5.15.　神戸にて
　　Mutsu　　Nakanishi

6.　生産が始まるまで 500 年を越えるたたら製鉄の謎
ここに日本の物づくりの原点を見る　　2006.7.5.

ある仲間が言葉は違いますが、次のようなことを教えてくれました。
新技術・新素材の時代だけども　何百年じっくりと続いてきた技術・素材の中にこそ新技術があり。　現在の機械化・コンピューター化技術だけを追っても　何も生まれない。
「自然に・地球にそして　天然なるも　伝統に眼をむけよう・・・・・・」と
またか　といわれそうですが、最近　鉄の製造技術これこそが古代に何百年も掛けて磨かれた日本の物づくり技術の原点ではないかと・・・・。
断片的に何度も書いていますが、古代の鉄技術の謎とその鍵　今面白がっていることをなぐりがきしました。
鉄鍛冶の技術はあっても鉄生産が出来ない。
500 年を越えて捜し求められた製鉄技術の謎　　せっせと古い製鉄遺跡を歩いているのですが、いまだにどんな風に日本で製鉄が始まったのか　判らない。最近はどうも　一機に新技術が入つて技術革新が起こったのではなく、鉄鍛冶の技術が延々と新しい技術と組み合わされ改良された結果ではないか・・・と思っています。「鉄は一夜ではつくれず」です。
今頃何を・・・・と言われそうですが、「製鉄は今も昔も　まず溶鉱炉で炭素分の多い銑鉄（いわゆる鋳物になる銑）を作り、それを再度溶かして　この炭素を燃やして　粘りと強さのある鋼を作ります」。
ところが　日本の古来の「たたら」製鉄は「不完全ながら「たたら炉で一機に鋼を得る技術」。
鉄が使われ出して　すでに 2000 年を越えていますが、いまだ現代においても２プロセス法が主流であり、古代からしても中国・ヨーロッパすべて２プロセス法である中で　日本のたたら製鉄だけが１プロセス法である。
正確にはたたら製鉄では大鍛冶と称して　吹きあげた鉄塊を小割りにして　似たような性質の塊を再度加熱半溶融にして脱炭して鋼に仕上げる。
たたら炉を意識的に溶鉱炉のごとく鋳物銑製造に使う「ズク押し・銑押し」の技術が始まるのは中世以降であり、

また　たたら炉で鋼を一機に作る「ケラ押し」の技術は日本刀の素材玉鋼を作る技術としてそのまま延々と主流であり続ける。
ついでながら　たたらで使われる砂鉄　日本独自の製鉄原料はどのようにアプローチされたのか・・・・・・
おそらくは鉄鍛冶の脱炭剤　反応促進剤として使われたのが、鉄鍛冶の現場で使われていて、たたら製鉄の原料としての価値が見出されたのではないか・・・・と思っています。
古代朝鮮半島新羅では細かく砕いた鉄鉱石が鋳鉄塊を半溶融脱炭する時に脱炭・反応促進剤として使われているのが見つかっている。
また、日本で製鉄炉の見つかっていない鉄鍛冶の時代に「砂鉄」が「鉄鍛冶」の家の中や古墳の中に壺に入れて祭られている??のが見つかっている。
さらに、日本では鉄鍛冶技術の一つとして鉄素材と鉄素材の鍛造接合・鍛接には硼砂や鉄錆びを混ぜたものを間に挟んで接合剤として使っている。
鉄錆びは砂鉄から発達したと考えることも出来る。
昔から　砂鉄・細かい鉱石粉は鉄鍛冶の周辺にあったと考えられ、それが鉄鍛冶・たたら炉の中で　脱炭剤・反応促進剤から鋼の増量剤に進化し、そして
製鉄原料に変化していったのではないかと思っている。
大陸から渡来人が数々の技術をもってこの製鉄技術に加わったに違いない。
でも　この２プロセス法としての認識なしには鋼が作れない。これが　日本で製鉄が開始されるまで５００年を超える歳月を要した理由の鍵ではないかと思っている。
独自でこつこつ改良に改良を重ね技術を磨き上げた結果がたたら製鉄に結実したと考えられる。
たたら製鉄が「千年の秘技」の技　たたら製鉄を取り仕切る村下の目を通してしか鉄が作れない由縁がここにある。
日本の物作り職人の技そして　その職人たちが何を見てプロセスをコントロールしてきたか　プロの眼がここにある。
効率化・省力化の経営的視点のみにこだわってなされた最近の品質管理・プロセス管理が破綻をきたしているのもここにある。
経営の眼だけでは見えぬものづくりの一本筋の通った視点がある。
「現場に帰ろう」の視点がここにある。
企業倫理とか管理の眼の強化などが対策としてよく言われていますが、それも大事でしょうか　物づくりを見通してゆく理念それが伝統に高められてゆく眼が本当は一番大事ではないかと思っています。なんぼ現場に帰っても　それがないと・・・
たたら製鉄の長きに渡る独自生産技術の模索の中にそんな姿を見ています。

7.　鉄道遺産　SL 山口号が京都の梅小路で解体修理

TV で山口線を走っている鉄道遺産 SL 山口号が京都の梅小路で解体修理される記録をみました。
また　「布留石上神宮の七支刀」の古代の製作方法の謎を解き明かす記録もやっていました。
いずれも　ものづくりの技が一般に言われる大発明や大発見でのみ構成されていないことを克明に謎解きした映像記録で、 接合・溶接屋の私には　とりわけ　SL がボイラーや機械部品に解体され、長年にわたる使用で入った亀裂や磨耗部の補修に目を輝かせていました。
この補修・修理の技は新品を作るよりも難しい技。 新しいものと古いもののマッチングの難しさ　これほど難しいものはない。新しいものを作る技術を含め、ものづくりの技が集約されているといっても過言でない。
歪・われ・亀裂　いらえばいらうほどおかしくなり、図面どおりには行かない。
「そんなもん　ちょっ　ちょっと　やっとけ」ばいけるやないか・・・と一般には思われ、スポットライトを浴

びることもないのですが、高松塚古墳の保存修復に見られるごとく、この技がきっちり受け継がれているのとないのとでは大違い。マスコミが中身を理解せず、「神業が　現在の技術ではできないものを作り上げた」と騒ぐことになる。

　悪い部分を直すというだけでなく　遺産を受け継ぎ、歴史・伝統ををつないでゆく。　そんなところから　新しいものが生まれ、再生する。 技術屋魂の底に常にあるものかもしれません。技というと何か科学的でないように見えますが、そこには基本技術も論理も解析もあり、マスコミが騒ぐ神業ではない。

問題はそれを含めて　技術なのですが、切り捨ててしまうかどうか・・・・です。

久しぶりに接合の技　心地よく見ました。

しっかり受け継がれる環境がないと品質も価格もええかげんななものになりかねない。

最近　物づくりだけではなく、社会全体に　そんな意識を時代遅れとし、軽んじてきた付けが回ってきている。

昨今の日本経営のあぶなかしさ　すっきりと明るい未来に希望を描けないのも　そんなところに原因があるのかも・・・・・・・・・

日本では　やっと経済が回復してきて、穏やかな世相になるかと思いきや　情け容赦のない弱肉強食の世相のボロがあちこちで噴出して・・・・

またかという大企業の横暴な品質問題に会社経営。

目的と手段をたくみに入れ替える理念のなさに情けなくなってしまう

「たたけるものは　たたけ」「とれるものは　とれるだけ　とれ」「しょせん　〇〇　われわれとはちがう・・・・」等々。

これはまさに悪代官のいいぐさではないか　　政治の貧困か　国際競争とは　こんなものなのか・・・・・・・

広島に行っていて、ふっと感じたのですが、視点を今だけに取らず、もっとスパンの長い世代間を越える尺度を持てば・・・・・と　　年寄りのたわごとかも知れません。

8.　抱　　擁　2006.11.20.

－「『宗教・教派を超えた平和の祈り』の集い」「広島国際平和会議」に参加して－

広島平和会議に出席したノーベル平和賞受賞3氏の多くの提言の中から

■ **ダライラマ14世**
「「慈悲」の心を。 他者への慈悲を　そだてよう」
「希望を失わず、自らが重荷を背負って、アジアへ世界へ力を貸そう」

■ **ベティー・ウィリアム女史**
「献身・努力・勇気を持って　世界で毎日続く恐怖を変えてゆこう」
「子供を守ることで許しあえる　それが和解・平和への実践の道
　北アイルランドでの実践がまだ途上であるがそれを示している」

■ **レイモンド・ツツ大主教**
「過去を見据えて　許しの心を」
「【復讐の正義】を捨て【修復の正義】を。 まっすぐ過去の真実をみすえ、人を許そう
　それが復讐の連鎖を断ち切り、マンデラ政権樹立後の南アフリカで起った事である」

11 月 1 日 2 日 広島でノーベル平和賞を受賞した 3 人(南アフリカ　ツツ聖公会名誉大主教・北アイルランド　ベティー・ウイリアム女史　　チベット　ダライラマ 4 世法王)を迎えての「広島平和の祈り」の集いと広島国際平和会議 2006 に参加しました。 3 人とも宗教・人種差別の厳しい状況の中で起った戦争を乗り越えて　戦い・武器を取ることを否定して平和の実践活動でノーベル平和賞を受賞した。

「平和を勝ち取るには　戦わねば・・・・」が主流の最近の世相。

「宗教」や「非暴力・平和主義」がパッシングにさらされている中で、それぞれ　宗教の違う彼らが「今　何を語り、何を教えてくれるか」　　それが知りたくて　参加してきました。

　みんな個性の強さがあふれる厳しい平和運動の実践家と思っていましたが、穏やかな話しぶりに人なつっこさがあふれる人達で、言葉はちがいますが、3 人が 3 人とも平和の実践の基本に「人類愛　　ひとつひとつ大切な命」のレベルで分かり合えば　困難は乗り越えられると。

言葉に出してしまうと本当に簡単ですが、説得力のある言葉でした。

　とくに　会場から　激情の中で　会議を止め、壇上の３人にアメリカ・メキシコ国境の惨状を訴え始めたとき、すかさず　会場にいた外国人の一人が訴えている人にかけより、抱擁し、壇上の人達もそれに答え、そして拍手が巻き起こりました。

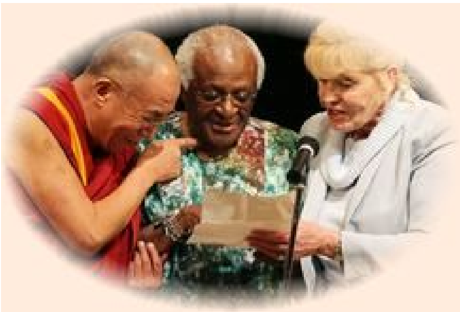
　最近大リーグの試合でベンチに帰ってくる仲間をひとりひとりが抱擁で仲間を出迎える場面が映し出されることが、多くなりましたが、私にはまだ　そうしきれない。

でも　それが　会議の中　目の前で　突然　しかも自然になされたことに本当に感激しました。これが　彼らの言う言葉かと。

また　ベティ・ウイリアム女史が「子供たちのことで　考えよう。そして　自らが　自らに立ち返って　小さくても行動しよう。世界に手をかそう。そうすれば乗り越えられる　そうやって　北アイルランドでは平和がもたらせようとしている」と語られたのが印象的でした。

「戦」を知らなかった縄文人　「戦」を経験した弥生人　日本人にはその両方の気質が内にある。それを　どうコントロールしてゆくのか・・・・・

「武器を取らねば　平和は勝ち取れない」の声に立ち消されそうでしたが、「平和　ひとつ　ひとつの命」その環の広がりにかけようと元気付けられました。



広島平和会議に出席したノーベル平和賞受賞3氏の多くの提言の中から

■ **ダライラマ14世**
「「慈悲」の心を。 他者への慈悲を そだてよう」
「希望を失わず、自らが重荷を背負って、アジアへ世界へ力を貸そう」

■ **ベティー・ウィリアム女史**
「献身・努力・勇気を持って 世界で毎日続く恐怖を変えてゆこう」
「子供を守ることで許しあえる それが和解・平和への実践の道
北アイルランドでの実践がまだ途上であるがそれを示している」

■ **レイモンド・ツツ大主教**
「過去を見据えて 許しの心を」
「【復讐の正義】を捨て 【修復の正義】を。 まっすぐ過去の真実をみすえ、人を許そう
それが復讐の連鎖を断ち切り、マンデラ政権樹立後の南アフリカで起った事である」

広島平和会議開幕

戦争ノー市民と祈り

ツツ氏ら　記念聖堂で集い

「広島国際平和会議2006」に参加した、ノーベル平和賞受賞者の南アフリカのデズモンド・ツツ名誉大主教(75)と英国・北アイルランド出身の平和運動家ベティ・ウィリアムズさん(63)を招き、市民と平和を祈る集いが一日夜、広島市中区の世界平和記念聖堂で開かれた＝1面関連。

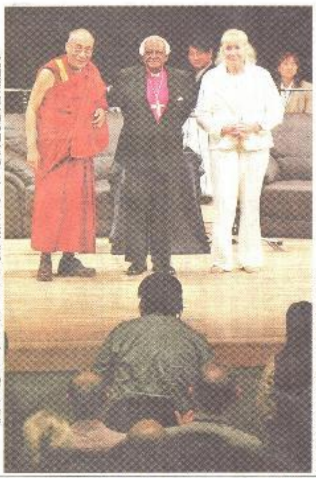
ツツ大主教とウィリアムズさんは、家族愛や非暴力への願いを込めた平和のメッセージを語りかけた。ツツ大主教が「核兵器や戦争、差別をなくすために戦う人、平和や寛容な世界に貢献する人のために祈りましょう」と身ぶりを交えながら訴えると、聖堂を埋めた市民から拍手がわき起こった。

広島市東区のチベット仏教寺院で修行する僧侶十四人やノートルダム清心高の合唱部なども加わり、読経や仏教賛歌、賛美歌で平和を祈った。

友人と訪れた中区の主婦中条チヨさん(59)は「互いの違いを見つけるのでなく、みんな家族だと思えたら戦争はなくなると思えた。胸がいっぱい」と興奮していた。

日本聖公会神戸教区とカトリック広島司教区、広島市キリスト教会連盟が共同で企画した。

（[illegible]）



全人類の幸せ考える態度を

広島で平和会議開幕

ノーベル賞3氏集う

広島国際平和会議の開会式でステージに並ぶ、左からダライ・ラマ14世、ツツ名誉大主教、ウィリアムズさん（撮影・山本誉）

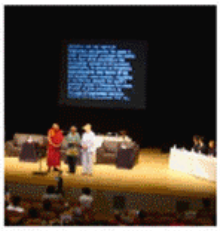
2006.11.2.　中国新聞記事などより整理

広島国際平和会議 2006 共同宣言（仮訳）

広島国際平和会議2006公式 Site より　http://www.hiroshimasummit.jp/message/

ここ広島に私たちは集いました。核のない世界を確立するために、この地の許しと平和を求めるこの街のもつ精神をより高めたいという思いからです。
核兵器による破壊に直面した、広島のひとびとは、戦争の恐怖を経験した後に、新たな解決策を求めたのです。
それは平和を実現するための対話の最も中心となる場所、そのような場としてこの街を復興することでした。
私たちは、この街がもっている精神、許すこと、そして報復はしないということ、このメッセージに人類すべてが注目して欲しいと希っています。
広島、この世界でもっとも悪しき破壊の苦痛が現実にもたらされたこの地、
ここはひとりひとりの人間が自分自身の国家、都市、団体を優先するのではなく、
よりグローバルで、人間らしい共同体およびこの世界全体を優先したいという発想の源です。

以下に私たちはすべての人々に宣言し、訴えます。
あなたの隣人はもちろんです。それがあなたの敵であったとしても、彼らを破壊すること、それはあなた自身を破壊してしまうことにほかなりません。
健康、教育、人権、青少年の育成、自然環境、これらの危機がもたらされる時、それがいかなる場所で起こっていようとも、その影響はすべての場所に起こります。
それゆえに、全地球的な責任を担い、すべての人がお互いに依存していることを認めること、これがあなた自身の幸せだけではなく、他者の利益のためには不可欠なのです。
私たちは、ひとつの家族の兄弟であり、姉妹であり、そして人類というひとつの全体です。
ですので、私たちは、他者が味わっている苦しみ、子供たち、弱者たち、高齢者たち、彼らの痛みに無関心であることをやめて、世界全体を問題としなければならないのです。
問題が起こっているその原因は私たち自分自身にあります。
そして、その解決もまた私たち自分自身からはじまるのです。
私たちは誰でも小さな子供の時から学んでゆかなくてはならないのです。 世界を変えるのに必要な力、それはそこにあるのです。



広島のメッセージを宣言します。
他者の家を壊すこと、　それはあなた自身の家を壊すことです。
他者の家を直すこと、　それはあなた自身の家を直すことです。
優先してください。　あなたのグループ、あなたの街、あなたの国でなく、世界全体を。
誠実であってください。　あなたのグループ、あなたの街、あなたの国だけでなく、世界全体に。
見守ってあげてください。　あなたのグループ、あなたの街、あなたの国だけでなく、世界全体を。
教育を受けさせてください。　あなたのグループ、あなたの街、あなたの国だけでなく、世界全体に。
思いやりを与えてください。　あなたのグループ、あなたの街、あなたの国だけでなく、世界全体に。
許しを与えてください。　あなたのグループ、あなたの街、あなたの国のなかだけでなく、世界全体に。
協力してください。　あなたのグループ、あなたの街、あなたの国のなかだけでなく、世界全体で。
変化はあなたの心からはじまります。
すべての人に愛を。

Nov 2, 2006
ベティ・ウィリアムズ
デズモンド・ムピロ・ツツ
ダライ・ラマ
広島国際平和会議２００６参加者一同

HIROSHIMA INTERNATIONAL PEACE SUMMIT JOINT STATEMENT　Nov 2, 2006

We have gathered in Hiroshima to reinforce this city's spirit of forgiveness and passion for peace in order to establish a nuclear-free world. In the face of the enormity of the devastation wrought on it by atomic catastrophe, the people of Hiroshima experienced the utter horror of war and sought a new solution, rebuilding a city that has become the world's premiere center of dialogue for peace. We wish to draw attention to its message of forgiveness and non-revenge for all humankind. This, the actual place of pain of the world's worst destructive weapon, is a dynamic source of inspiration for putting not one's own nation, city, or group first, but for putting the global human community and the entire planet first. We affirm and call on all to consider that:

Destruction of your neighbor and even your enemy is destruction of yourself.
A crisis anywhere in health, education, human rights, care of children, or the environment has repercussions everywhere.
Therefore, acceptance of global responsibility and interdependence is essential both for your own well-being and for others' benefit.
Since we are one family of sisters and brothers and one body of humanity, we must transform indifference to the pain of others-of children, of the infirm, and of the aged-into global concern. The problem starts with oneself, and so the solution also starts with oneself. All from childhood on need to learn that the power to transform the world resides in them.

Affirming the Message of Hiroshima
Destroying another's house destroys your own.
Repairing another's house repairs your own.
Not your group, city, or nation first, but the world first.
Loyalty not just to your group, city, or nation but to all.
Care not just for your group, city, or nation but for all.
Education not just for your group, city, or nation but for all.
Compassion not just for your group, city, or nation but for all.
Forgiveness not just within your group, city, or nation but for all.
Cooperation not just in your group, city, or nation but with all.
Change begins in your heart.
Love for all.

Betty Williams, Northern Ireland (1976)
Archbishop Desmond Tutu, South Africa (1984)
The Dalai Lama, Tibet (1989)
And all the participants of the Hiroshima International Peace Summit 2006